

プロジェクト3 水俣学関連資料の収集およびデータベース化と世界的発信

1. 本プロジェクトの目的

水俣学に関連した基礎資料を収集するとともに、その整理と目録の作成をおこない、データベースとして世界的に発信し、水俣学の基礎的環境を整える。

2. 水俣学研究センターの資料収集の経過

- ・熊本学園大学では、附属産業経営研究所が従来より水俣関係の資料を収集。
- ・1999年に水俣学研究プロジェクトが立ち上がったからは、附属社会福祉研究所に水俣学資料室を付設、水俣病関連の訴訟関連資料、行政資料や研究文献を収集。
- ・2005年4月に水俣学研究センターが開設され、体系的な資料収集と整理作業が開始。

3. 水俣学研究センター所蔵資料

A. 文字資料

1) 資料

- (1) 新日本窒素労働組合旧蔵資料 (6, 225点)
- (2) 水俣病研究会資料 (数万点)
- (3) 名古屋水俣病を告発する会資料 (約300点)
- (4) 浜本二徳氏資料 (約300点)
- (5) 福田弁護士資料
- (6) 矢作正氏資料 (約500点)
- (7) 石田博文氏資料
- (8) 海外資料 (国際フォーラムや海外調査を通して得られた資料)
- (9) 医学関係資料
- (10) 水俣関係新聞記事スクラップ (2007年3月～2009年9月 4384点)

2) 文献

- (1) 水俣学関連書籍 (2296点)
- (2) 関連研究論文
- (3) その他 (報告書、行政資料、訴訟関係資料、漁業資料、簿冊300点・冊子250点)

B. 視聴覚資料

1) 写真

(1) 新日本窒素労働組合旧蔵資料 写真資料 (63,600点)

- ・ 研究活動で撮影した写真は電子写真のため、ハードディスク上に保存、長期的な保存方法については検討中。

2) 映像

(1) CD 26点

(2) DVD 392点

3) 音声

- ・ 録音は電子録音を用いているため、テープ起こしをして保存する方法をとっている。
- ・ 音声データの長期的な保存方法については検討中。

C. その他

1) 物品資料

(1) 新日本窒素労働組合旧蔵資料 物品資料 (297点)

(2) 絵葉書 (70点)

4. 新日本窒素労働組合旧蔵資料

1) 新日本窒素労働組合とは

1906年(明治39) チッソ株式会社創立、翌々年に石灰窒素製造のための水俣工場を建設。

1927年(昭和2) 朝鮮の咸鏡南道興南に(株)朝鮮窒素肥料を設立、東洋一の化学工業会社

1946年(昭和21) 1月26日に日本窒素水俣工場労働組合が結成。

1953年(昭和28) 身分制撤廃争議で、工員・社員の身分を廃止させる。

1956年(昭和31) 水俣病が公式確認、1959年には(株)新日窒と漁業組合さらには患者との間で補償・見舞金契約が結ばれる。

1962年(昭和37) 会社側の安定賃金の提案を組合は拒否、翌年1月まで争議。争議のなかで第二組合がつくられるが第一組合は多数派を維持。

1968年(昭和43) 8月30日の定期大会で、公害発生企業の労働者として「何もしなかったことを恥とし、水俣病と闘う」という「恥宣言」を採択。

2004年(平成16) 3月解散大会を開催、翌年3月30日、最後の組合員2名の退職をもって、58年の歴史に幕。

2) 組合資料の特色と内容

- ・ 組合は活動で作成した資料の再編綴の作業を定期的におこない、さらに登記書類や会社との協定書等の基本的な書類を厳重に保管。このような取り組みにより完全な形での資料の保存が可能になり、組合結成時から解散までのほぼ基本資料が切れ目なく残存。
- ・ 総評、合化労連の上部団体および合化加盟の単組資料を多く含む。
- ・ 執行委員長等のメモが大量に残存（手帳・A6サイズノート）。
- ・ 日刊さいれん等の機関誌類が完全な形（関連するピラも含めて）で残る。
- ・ 水俣病関係の重要資料（組合員の健康調査）
- ・ 機械設備の設計図や仕様書など、技術関係の資料
- ・ 写真資料（安賃争議時に拠点毎に撮影）と物品資料（297点、計算機・ゼッケン・鉢巻等）

3) 組合資料の移管と整理

2004年（平成16） 6月水俣学研究プロジェクト事務局長花田昌宣名で、「研究実施のための研究設備・研究環境の整備のための協力依頼」を組合に提出。

移管に向けて組合資料の整理が組合事務で始められる。

2005年（平成17） 8月に設立された水俣学現地研究センターに組合資料を移管。

本格的な整理を開始、整理には元組合員の有志があたる。

2009年（平成21） 『新日本窒素労働組合旧蔵資料目録』（403ページ）を刊行。

11月より、本目録水俣学研究本センターのホームページに電子目録として公開を予定

・ 現在、資料は水俣学現地研究センター1階の電動書架に架蔵され、一部貴重文書や個人情報を含む利用制限の必要な文書は2階文書庫に配置されている。

4) 写真資料の整理

・ 組合は安賃闘争時、組合員の居住地にもうけた拠点毎に写真撮影班を置き、闘争の模様を記録した。

・ 2007年よりこれの整理に着手したが、一時中断、今年度より整理活動を再開した。

5) 資料細目データベースの作成

・ 新日窒労組旧蔵資料のデータベース化にむけて、資料一点単位での目録化作業を本年度の夏より開始。11月18日時点で作成されたデータは55冊、2778データ。

・ 登録された簿冊や書籍1点ごとに、そこに綴り込まれている資料の1点ごとの細目を作成。

・ 雑誌は目次、新聞は1点ごとの記事の細目を作成。

・年代別資料点数

1940年代	21点
1950年代	407点
1960年代	2276点
1970年代	1788点
1980年代	1061点
1990年代	461点
2000年代	211点

6) チッソ労働運動史研究会

本資料の内容理解を深めるため、本研究センターの研究者をはじめ、大阪市大、九大、佐賀大学等の研究者および旧新日窒労組員有志の参加をえて、2006年度より「チッソ労働運動史研究会」を立ち上げた。これまで06年より08年まで14回開催した。

5. 成果の発信

1) 資料叢書の刊行

『水俣病に対する企業の責任』

『水俣病と学校教育』

『水俣病医学論文三部作』

2) 新日窒労組資料公開記念資料展

(1) 展覧会の概要

タイトル：水俣病とむきあった労働者たち

—新日本窒素労働組合60年の軌跡—

開催日時：東京展 2009年10月30日（金）～11月8日（日）

法政大学市ヶ谷校舎ポアソナードタワー14階 博物館展示室

シンポジウム 11月8日（日）、映像上映展11月3日（火）

大阪展 2009年11月17日（火）～11月29日（日）

大阪人権博物館

シンポジウム 11月29日（日）、映像上映常時

熊本展 2009年12月7日（月）～12月20日（日）

熊本学園大学14号館 1411教室

シンポジウム12月9日（水）

水俣展 2010年1月8日（金）～1月21日（木）

水俣学現地研究センター・水俣市婦人会館

記念講演 1月16日（土）、映像上映常時

主催：熊本学園大学水俣学研究センター

共催：法政大学大原社会問題研究所、大阪人権博物館

（2）展示の構成

第1部 江戸時代の水俣

第2部 水俣市街の形成と日本窒素の創業

第3部 日本窒素労組結成と身分制度撤廃闘争

第4部 安定賃金粉碎闘争

第5部 長期抵抗闘争

第6部 水俣病患者と新日窒組合

第7部 組合の日常

（3）展覧会の反響

東京展に関するマスコミ報道

『西日本新聞』 9月12日・10月31日

『労働情報』 10月1・15日

『東京新聞』 10月3日・10月26日

『週刊金曜日』 10月23日

『朝日新聞』 10月26日

『熊本日日新聞』 10月28日・10月31日

『The Japan Times』 10月31日

東京展の入場者

648人